

Market Flash

2018年 Top Risks



2018.01



日本アルプス電子株式会社
NIHON ALPS ELECTRONICS CO.,LTD.



今年**は戌戌**。株式相場の格言では戌「笑う」の年です。

4日の大発会は741円上昇し、**26年ぶりに2万3500円台を回復**しました。

米国や中国の経済指標が改善し企業業績が拡大したことが背景にあります。政治的リスクは相変わらずあるものの、今年**は「笑う」年になる**というのが大方の見方です。

日本の企業業績も拡大し、上場企業には**3%以上の賃上げ要求**が政府からも出ています。あとは、個人が安心して消費できる将来の見通しを明るいものにするというのが政府に求められている最大の課題です。

今年**は、AI、EV自動車、フィンテックがキーワードになる**と思います。第4次産業革命が起ころうとしているときに、いかに日本が遅れることなく、いや、先頭を走ることができるかが、日本の将来を決めてしまうほど重要な年になるのではないのでしょうか。

今年のレポートは、このような事柄に焦点を当ててみたいと思っています。

本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

干支で占う2018年(平成30年) 戌年(いぬ年)

2018年は**戌戌(つちのえいぬ)**

「**戌戌**」は、「干支」の組み合わせの第35番目で、陰陽五行では、十干の「戌」は陽の「土」、十二支の「戌」は、陽の「土」で、比和となる。

還暦を迎えるのは1958年(昭和33年)生まれの人。戌年の年男・年女は、1934年(昭和9年)、1946年(昭和21年)、1958年(昭和33年)、1970年(昭和45年)、1982年(昭和57年)、1994年(平成6年)、2006年(平成18年)生まれの皆さんです。

十干の「**戌(つちのえ)**」は、生命の成長サイクル十種類のうちの5番目にあたり、勢い良く葉が茂る様子を表し、繁栄を意味している。易学の古典によると「**戌は“茂”に通じ、陽気による分化繁栄**」と書かれていて、人間で言えば仕事をバリバリとこなす壮年期であり、人生で最高の活動時期という事になるうか。

「**戌**」は、陰陽五行「木・火・土・金・水」の分類では「**陽の土**」に当たる。方位も五行で分類されるが、土は東西南北のどこにも関わらず中心点にある。季節も同じく春夏秋冬のどこにも関わらず、四季の変わり目である立春・立夏・立秋・立冬の直前の18日間ずつが土となる。土用の丑の日で有名な土用はこの期間に当たる。このように五行における「**土**」は中庸であり、陰にも陽にも属さない。これは一種の安定とも取れるが、他方、陰陽と言う二極に分類されない不安定な境界線上にあり、ヤジロベエの一本の足のごとく、バランスがくずれば、どちらにも転ぶ可能性がある状態とされている。

十二支の「**戌(いぬ・じゅつ)**」は、生命の成長サイクルの11番目で**枯れた木を表し、終焉・滅亡・終わりを意味**している。そして「**戌**」は、陰陽五行の分類では「**陽の土**」に当たる。つまり「**戌**」と同じである。このような「**陽の土**」×「**陽の土**」という同じもの同志が重なりあう関係を「**比和**」と呼ぶ。

このように2018年の「**戌戌**」という干支が意味するものは、**大いなる繁栄を意味する十干の「戌」と、滅亡を意味する十二支の「戌」が、「比和」という関係によってその威力を最大限に強めつつ、でもどちらに転ぶかは不安定な境界線上にある**、ということになるが、**陽気を見定め、真剣な果断によって維新・一新に繋げるべき年**にしたものだ。



戌の雑学

<成年生まれの特徴>

誠実で真面目。思いやりがあって親切。忠実で律儀、献身的なので、周囲からの信頼も厚い。安全志向で忠誠心が強いぶん、裏切られるとダメージが大きく、抱え込みやすくもある。

<文化的特徴>

犬は人間と暮らし始めた最も古い動物のひとつで、古代ギリシャや古代メソポタミアでは、飼い犬が壺などに描かれている。日本でも、縄文時代の遺跡から犬の骨が発掘されているそう。日本では狼を表す「ヤマイヌ」に対し犬を「イエイヌ」といい、野生化したものを「野犬」という。古くから猟犬、番犬、愛玩犬などとして親しまれ、発達した嗅覚を活かして警察犬や災害救助犬としても活躍している。

また、犬はたくさん子どもを産んでお産も軽く、子どもを育てるのも上手。子犬も丈夫に育つので、安産、母子の健康、子育てのお守りになっている。代表的なのが、「戌の日」の帯祝い、犬張り子、犬筥などである。

「戌の日」の帯祝い

帯祝いとは、妊婦に岩田帯などの腹帯を巻いて安産を願う習わしで、安定期に入る5カ月目の「戌の日」に行う。干支が12年に1度巡ってくるのと同様、日にも十二支があるので、「戌の日」は月に2~3回巡ってくる。地方によっては、7カ月目の「戌の日」などの場合もある。

犬張り子と犬筥(いぬばこ)

犬張り子と犬筥は、安産、母子の健康、子育てのお守りとされている。嫁入り道具やひな祭りのひな飾りとしても用いられ、出産祝いや初節句のお祝いとしても親しまれてきた。

犬張り子

飾ってよし、遊んでよしの犬張り子。ぼろぼろになるまで遊ぶと、力がついたと喜びばれた。

【犬張り子】

犬のかたちをした張り子玩具で、江戸時代に江戸で生まれた。京の犬筥の江戸版なので、上方では東犬(あずまいぬ)と呼ばれている。立ち姿で、でんでん太鼓を背負ったり、竹ざるをかぶったりしている。竹ざるをかぶっているのは、「竹」かんむりに「犬」で「笑」になるため、「笑顔のたえない元気な子になりますように」との願いから。お宮参りの祝い着に、犬張り子を結びつける地方もある。

【犬筥】

犬のかたちをした置物で、室町時代頃から公家の間で、産室や乳幼児の枕元に置いて魔除けのお守りにした。顔は幼児を模しており、体は伏せているのが特徴。雄雌一対で飾るが、箱状になっているので、雄犬に安産のお礼を、雌犬に白粉等の化粧道具を入れていた。別名・御伽犬(おとぎいぬ)。犬張り子ともいうが、後に生まれた江戸の犬張り子と区別するようになった。



<犬にまつわることわざ>

●犬も歩けば棒にあたる

本来は、犬がうろろうしているときに人に棒で叩かれるかもしれないということから、「でしゃばると災難に遭う」という意味だが、反対に「じっとしていれば何も起こらないが、何かをやっていると思いがけない幸運に巡りあうこともある」という意味で使われることも多くなった。

ちなみに、いろはかるたの最初の札が「犬も歩けば棒にあたる」なので、「犬棒かるた」と呼ぶこともある。

●犬が西向きや尾は東

当たり前でわかりきっていること。

●犬も食わぬ

誰も好まず相手にしないこと。

●夫婦喧嘩は犬も食わない

夫婦喧嘩はつまらない原因や一時的なものだから、他人が心配したり仲裁したりするものではないということ。

●犬に論語／犬に念仏 猫に経

道理の通じない人には何を言っても無駄であること。

●犬になるなら大家の犬になれ／犬になるなら大所の犬

主人を選ぶなら頼りがいのある大物を選んだほうがよい。

●犬の遠吠え／負け犬の遠吠え

臆病者が陰で威張ったり陰口を言ったりすること。

●尾を振る犬は叩かれず

従順な人は誰からもひどい仕打ちを受けることはない。

●飼い犬に手を噛まれる

面倒をみてかわいがっていた人に裏切られ、酷い目に遭わされること。

●犬猿の仲

非常に仲が悪いこと。

●犬馬の心

主君に対して忠誠を尽くして恩に報いようとする心。



戌年の主な出来事

過去の戌年を振り返ってみると、政変の起こる年と何事もない年がまちまち。戌戌の年の特徴を表すように、中心に位置して動かないかどちらかに傾く年になるようだ。また、経済的には新しいものが生まれた年が多かったように思える。

○戦後の「戌年」の出来事

2006年	<p>政権は小泉内閣から安倍内閣に9月にバトンタッチ 携帯電話の番号ポータビリティ制度開始 神戸空港が開港 表参道ヒルズがオープン 第一回ワールドベースボールクラシック開催(優勝国 日本) ライブドア事件</p>
1994年	<p>政権は細川内閣から羽田内閣、そして、村山内閣へと変遷された年 日本人初の女性宇宙飛行士・向井千秋さん宇宙へ 関西国際空港が開港 大江健三郎氏がノーベル文学賞受賞 オウム真理教によって松本サリン事件発生 初の気象予報士国家試験が行われる</p>
1982年	<p>政権は鈴木善幸内閣から中曽根内閣に変わった年 東北新幹線 上越新幹線開業 500円硬貨発行 テレホンカード使用開始 4コマ漫画「コボちゃん」が読売新聞朝刊で連載開始 「森田一義アワー 笑っていいとも!」が放送開始 ホテルニュージャパン火災発生(33人死亡) 日本航空350便墜落事故(24人死亡)</p>
1970年	<p>政権は佐藤栄作内閣が長期政権の真っ只中 早川電機工業がシャープに社名変更 東京大学宇宙研、初の国産人工衛星「おおすみ」の打ち上げに成功 日本万国博覧会(大阪万博)開幕 日本航空機よど号ハイジャック事件発生 植村直己が北米大陸最高峰マッキンリー山に単独初登頂。世界初の五大陸最高峰登頂者となる。</p>
1958年	<p>政権は岸内閣で変化なし 東京通信工業がソニーに社名を変更 関門トンネルが開通。本州(山口県下関市)と九州(福岡県北九州市)が道路で結ばれる。 日本コカ・コーラ、炭酸飲料「ファンタ」を日本で発売。 日清食品が「チキンラーメン」を発売。東京タワー竣工</p>

本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。



「戌年」の株式市場

「辰巳(たつみ)天井、午(うま)尻下がりに、未(ひつじ)は辛抱、申酉(さるとり)騒ぐ、戌(いぬ)笑い、亥(い)固まる、子(ね)は繁盛、丑(うし)つまずき、寅(とら)千里を走り、卯(う)跳ねる」といわれる。

戦後の東証での売買が再開された1949年以降に「戌」は過去5回あり、勝率は**4勝1敗**とまずまずの成績。唯一のマイナスとなった1970年は、「いざなぎ景気」が年央に終焉し、年末にかけて構造不況論が浮上しました。5回平均の騰落率は年**プラス9.1%**で、これは**十二支中で7番目**である。

今年も戌年でも、「戌(つちのえ)戌」となる。今回は60年前の**1958年**で、この年の日経平均は年間で**40.5%**もの上昇を示しています。当時は**東京オリンピック(1964年)に向けて国立競技場が完成。岩戸景気がスタートした年でもあった。**

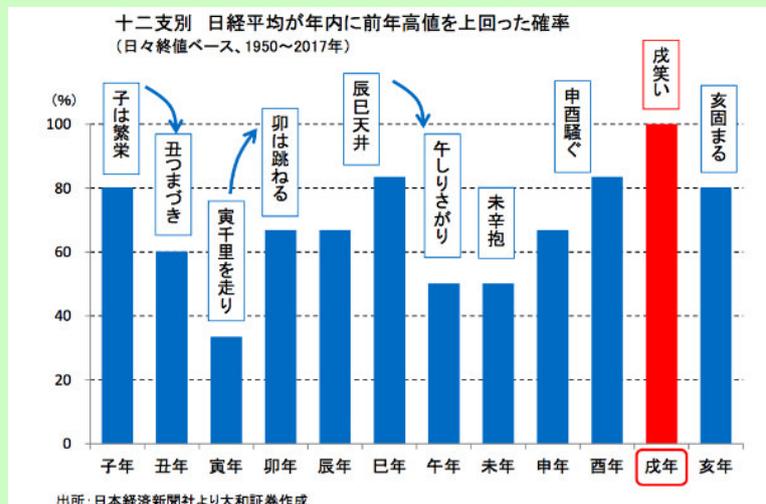
なお、当時の首相は安倍晋三現首相の祖父である岸信介(在任は1957年～60年)。1961年までの長期上昇相場の入り口になっている。なお、十干である戌は、自然界では大きな山・岩にたとえられるということで、どっしりとそびえ、安定していることを示唆する。安倍首相は任期の延長も可能になっており、どっしりとした経済運営に期待したいところだ。

このほかの戌年は1982年(4.4%上昇) 米レーガン大統領によるレーガノミクスが当初は金利上昇で景気の圧迫要因に。その後は世界株高の出発点となった。ちなみに、2017年に成立したトランプ現大統領の税制改革法案はレーガノミクス以来の規模となっている。

1994年(13.2%上昇) 総合経済対策とそれを評価した海外投資家の買いに上昇。ただ、年央以降はやや伸び悩みに。

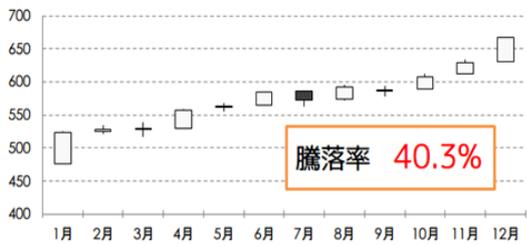
2006年(8.9%上昇) ライブドアに強制捜査が入った「ライブドアショック」でスタート。米国では利上げの打ち止め。

右の図のように、過去の戌年はいずれも前年の高値を抜いている(年末ではなく年の間に)唯一の年です。

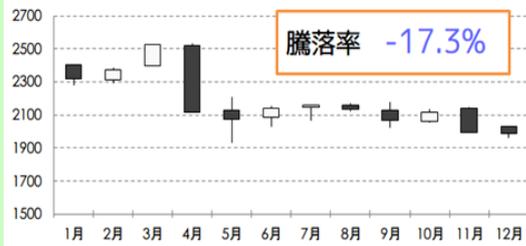




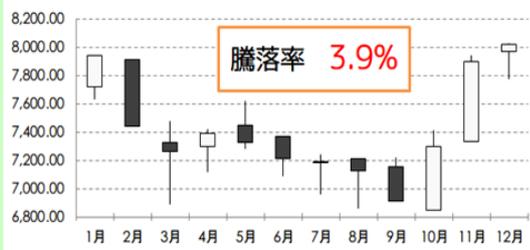
戌年(いぬ) 1958年の日経平均推移



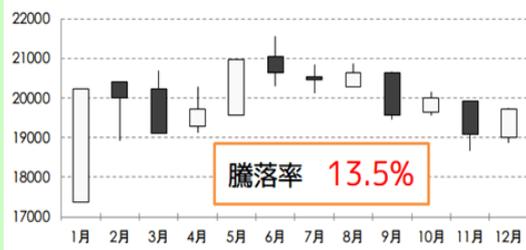
戌年(いぬ) 1970年の日経平均推移



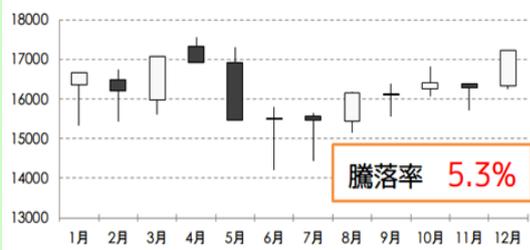
戌年(いぬ) 1982年の日経平均推移



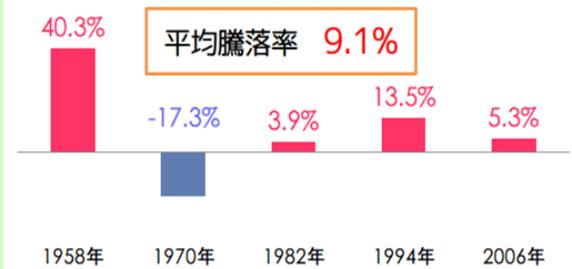
戌年(いぬ) 1994年の日経平均推移



戌年(いぬ) 2006年の日経平均推移



戌年(いぬ)の成績 4勝1敗



西暦	年号	騰落率
1958年	昭和33年	40.3%
1970年	昭和45年	-17.3%
1982年	昭和57年	3.9%
1994年	平成6年	13.5%
2006年	平成18年	5.3%

本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。



<2018年スケジュール>

○ 2018年の政治イベントは、自民党総裁選、米中間選挙、ロシア大統領選



安倍・トランプ・習近平・プーチン・メルケル・マクロンがこの間の世界秩序を構築

(資料) みずほ総合研究所作成

国内	<ul style="list-style-type: none"> 1月 つみたてNISA開始 1月 預貯金口座のマイナンバー付番開始 4月 日銀黒田総裁任期満了 4月 コメの生産調整見直しを受けた作付け開始 6月 財政健全化計画の修正 6月 住宅宿泊事業法(民泊新法)施行 8月 日中平和友好条約締結から40周年 9月 自由民主党総裁選 10月 全銀システムの24時間365日稼働開始 10月 明治維新から150周年 12月 未来投資戦略における「FTA比率70%」目標達成期限 年内 新元号発表
海外	<ul style="list-style-type: none"> 1月 EUでMiFID II が適用開始 2月 FRBイエレン議長任期満了、パウエル新体制に移行 2月 平昌冬季五輪開催、長野五輪開催から20年 3月 ロシア大統領選挙 ~5月 イタリア総選挙 6月 G7シャルルボア・サミット 6月 FIFAワールドカップ・ロシア大会 7月 メキシコ大統領選挙 9月 北朝鮮建国70周年記念日 9月 リーマン・ショックから10年 10月 ブラジル大統領選挙 10月 G20ブエノスアイレス・サミット 11月 米国中間選挙 11月 タイ総選挙

本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。



アメリカの国際政治学者イアン・ブレマー博士が率いるユーラシア・グループという会社が毎年発表する「Top Risks」という報告書がある。

ブレマー氏が代表を務めるユーラシア・グループは、国際的な政治リスクについて研究するコンサルティング会社で、毎年初めにその年の世界の政治リスクトップ10を予想して発表している。

「Top Risks 2018」も1月4日に発表された。その内容をご紹介します。

概要 ~ Overview

2018年は良いと思わない。もちろん、マーケットは上昇し、経済も悪くない。しかし、市民は分断されている。政府は十分に統治できていないし、世界秩序は緊張している。

昨年、私たちは地政学上のリセッション(後退期)に入ったと書いた。徐々に不安定化するGゼロ(主要先進国の指導力低下)、トランプ大統領の誕生から加速する国際的な政治のホップズ(トマス・ホップズ)状態。

世界はいま、過去の安定への回帰というよりも地政学的な不況に近い。

「アメリカ・ファースト」とその政策は、米国がリーダーシップを取る秩序を侵食し、他の国々はそれを再構築する準備ができていない。リーダーなき世界がより鮮明になってきている。

アメリカの世界での影響力低下は2018年に加速するだろう。ソフト・パワーと経済、自由主義は危機に直面している。地政学的な不況の見通しに関する懸念がトップテンの背景にある。

昨年2017年の10大リスクのトップは「独立した米国」だった。トランプ大統領の就任で、ナショナリズムが台頭し、孤立していくリスクを上げていた。

ことしは、そうしたことを背景として中国の影響力がますます高まることをリスクのトップに挙げている。

中国は広域経済圏構想「一帯一路」やインフラ投資などを通じて、関係国への影響力を強めると予測。存在感の低下する米国の間隙(=真空状態)を突くように中国が台頭する状況を、ユーラシア・グループのイアン・ブレマー社長は「中国は真空状態を愛す」と独特の表現で評した。

習近平政権が権力を強め国内統制を強化し、中国共産主義を強固なものにする一方で、経済面では大胆な政策を実施し、経済的に世界の先進国入りを実現しけん引するような存在になっている。

この勢力の拡大は、これまでの資本主義、民主主義の米国がけん引してきた世界とは全く違う影響を与えるであろう。そのリスクを十分に理解し、対策を打つ必要があるとこのレポートは主張している。

2018年のマーケットは順調な出だしを示し、世界経済は順調に拡大を続けると思われるが、このような地政学リスクについては、確率は0%か100%であり、常に起こりうる想定して事前の対策をしっかりと立てておく必要があるとブレマー社長は強調している。

ユーラシア・グループが予測した2018年の10大リスク	
1	中国は真空状態を愛す (米不在の間隙=真空状態をついて中国が影響拡大)
2	偶発的なアクシデント
3	世界的なテクノロジーの冷戦
4	メキシコ
5	米・イラン関係
6	組織・機関の衰え
7	保護主義2.0
8	英国
9	南アジアの政治
10	アフリカの安全



China loves a vacuum ~ 真空状態を愛する中国

中国の歴史の中で、第 19 回党大会は転換点となった。習近平の演説は、ゴルバチョフがソビエト連邦の解散をした以来、地政学的に認められるものとなるだろう。

中国は世界のリーダーシップについての話題を避け、イデオロギー的ではなかったが、2017 年に戦略の転換を示した。

彼は幸運なタイミングにより利益を得るだろう。ワシントン主導の多国間主義への米国のコミットメントを放棄したトランプは、アジアにおける今後の米国の役割について多くの不確実性を生み出した。

今や中国がそれを満たすことができる新たな勢力を作り出すことが可能だ。

Accidents ~ アクシデント

911 以降、目立った大きな地政学的な危機はなかった。しかし、今日。そのような危険性を無視することは不可能になった。

誤った判断により重大な国際的な紛争が引き起こされる場所が多すぎる。

第三次世界大戦の瀬戸際にいるわけではない。ただ、世界的な保安官 (Global security underwriter) が不在であれば、世界はより危険な場所となる。

Global tech cold war ~ 世界的なテクノロジーの冷戦

技術革新は加速している。近年、コミュニケーション革命が、今までなかったような情報へのアクセスを可能にし、垣根のないコラボレーションという力を与えた。

今日、もっとも大きな話題である AI の革命はますます大きくなっていく。

アメリカと中国の間では、画期的な技術競争が進行している。

AI やスーパーコンピューターなどの次世代技術の勝者は、経済的にも地政学的にも、今後数十年を支配することになるだろう。米国は未だ最高の技術を持っているものの、この分野に対しての中国の積極的な投資には米国も苦勞するだろう。

レースはタイトだ。

Mexico ~ メキシコ

2018 年はメキシコにとって受難となるだろう。NAFTA の最高性と 7 月 1 日の大統領選挙は、ともにマーケットにとって大きなリスクとなるだろう。

NAFTA の交渉次第 (メキシコの反米勢力の勝利) では、メキシコ経済とそれに投資する人々は痛みとなる。

US-Iran relations ~ 米・イラン関係

米国とイランの関係は、地政学的、マーケットのリスクの要因となる。JCPOA として知られる核取引による不確実性はこの地域を真の危機に追いやっている。



The erosion of institutions ~ 機関の衰え

政府期間の合法性は彼らの信憑性に依存している。イギリスの前保守党によりブレグジットに至らせたとする人々は「専門家はたくさんだ」と思っている。

Protectionism 2.0 ~ 保護主義 2.0

人民主義圧力、国家資本主義の広がりと進行中の地政学的な不況により、保護主義が帰って来た。まるで彼らが失われた仕事について何かをしているように。

保護主義 2.0 は、「古い」と「新しい」経済。国家競争力の要素としてデジタル経済とイノベーションに介入し、指摘財産と関連技術を重要なものとして保存していくことを国際競争における主な目標としている。

United Kingdom ~ イギリス

イギリスにとって、2017 年は面白くなかったかもしれない。

ただ、2018 年は最悪なものとなる。ブレグジット交渉と国内政治により、国は危機に見舞われる。

北アイルランドは重大な懸念材料となる。昨年の取引は解決しているが、北アイルランドとの間の国境問題についての解決策については不明である。

Identity politics in southern Asia ~ 南アジアの独自性のある政治

ヨーロッパとアメリカのアイデンティティ政治。我々は東南アジアとインドで 2018 年にさらに同じような状況を見るかもしれない。それはこれら発展している地域の未来を脅かすだろう。

南アジアのアイデンティティ政治にはいくつかの形がある。イスラム教、中国や他のマイノリティへの嫌悪感。インドのナショナリズム。

東南アジアの一部のイスラム主義は地方のポピュリズムを進めるだろう。

Africa's security ~ アフリカの安全

"昇るアフリカ" というナレーションは引き続き魅力的だが、今年は転換点となるかもしれない。不安定な地域からのマイナススピルオーバーが、大陸の成功を台無しにするかもしれない。

脅威は、セキュリティリスクと戦闘(テロ)にある。イスラム国家は西アフリカで勢力を拡大し、東アジアに拡大する可能性が高い。



2018年 日本株式市場予想

今年の順調な株式市場の上昇により、2018年も強気の予想が増えている。
株価としては28,000円から30,000円という声も聞かれる。その根拠となっている要因としては以下の通りである。

1. 2017年の総選挙により安倍政権の3期継続が濃厚となり2021年までの安定政権が持続する。これにより、これまでの政策の基本である金融緩和及び財政出動が継続されそれを好感する向きが多い。安倍政権が2021年まで続けば過去で最も長い政権となる。
2. 外国人投資家は現状ベンチマークと比較して日本株の資産配分を3%程度低くしている。これをベンチマークと同程度まで引き上げれば**約8兆円の資金が流入**することになる。
3. みずほ証券の予想では、3月機決算の東証1部の最終利益は前年比11%増であるが、2017年4—9月期の伸びが22.7%に達しているため上昇修正される可能性が高い。
4. 日本の**PER(株価収益率)は15倍程度と割安**である。
5. GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)は2014年以降日本株への投資比率を12%から25%に高めつつある。
6. リーマンショック後、世界の株式時価総額は3.5倍であるが、日本はまだ**2.4倍**しかになっていない。

など、強気の要因を集めるとこのようなことが考えられる。

チャートの見てもバブルの高値からの崩落の半値戻しが実現され、それを底固めできれば3万円の水準も現実味を帯びてくる。

ただ、誰もが強気になった時に調整が入るのがマーケットの常であることは注意しておきたい。





2017年 Top Risks

<サプライズ予想>

大胆に最善・最悪のシナリオを予想してみました。()は確率

1. 日本株3万円、米国株3万ドル突破(50) VS 地政学的リスク(北朝鮮との戦争、中東戦争など)により株式市場大暴落(50)
2. 米国が北朝鮮のICBM開発放棄と核保有を承認で妥結(50) VS 米国との戦争に突入(50)
3. EUの離脱交渉が順調に進み新たな枠組みの概要が確定(20) VS 英国のEU離脱交渉がうまくいかずメイ首相が退陣し、再び国民投票の結果、離脱を撤回し再び大混乱(80)
4. 安倍政権が長期安定し、目に見える形で景気も拡大。政府がデフレ脱却を宣言し、日銀も出口戦略の実行を示唆(80) VS アベノミクスの行き詰まりで再び景気停滞。財政赤字が大きくクローズアップされ、長期金利が急騰。大幅な円安を伴いミニバブル崩壊。(20)
5. 仮想通貨市場の整備が進み大手金融機関も参入。日本にもキャッシュレス時代が到来。フィンテックにより金融革命が起こる。(80) VS ビットコインが過熱し3万ドルを突破するもその後クラッシュ。投機マネーが仮想通貨から撤退。また相次ぐハッキングで倒産続出し市場が崩壊(20)
6. 中国経済規模はますます拡大し、世界各地で中国の力が拡大。海洋開発や軍事進出も拡大するも各国は妥協(80) VS 中国の隠し不良債権が表面化し国際的信用力低下し、景気も急減速。国内では、情報規制強化に反対する民主化運動が各地で起こり習体制が危機に(20)
7. トランプ大統領がエルサレムに関する発言を撤回。中東危機回避(20) VS 中東と米国の対立が激化して石油価格が急騰。再び百ドルに迫る。(80)
8. プーチンが再選され北方領土の問題も解決へ。日露経済協力が進み景気にも好影響(20) VS プーチン大統領が再選されるも国内での反政府運動が活発になり、国内混乱。国際的ドーピング問題でスポーツ界でますます孤立する一方で、政治的圧力を強める。東京オリンピックボイコット発言も(80)
9. AIやEV自動車に日本独自の技術を生かした開発が加速。業種を超えた製造業の結束で世界をリード。農作物工場拡大や養殖技術の発展により、日本独自の供給体制を構築。第1次産業の革命のスタートを切る(80) VS EV自動車の急速な革新により日本の製造業が立ち遅れ、産業構造破壊を起こす。自然災害の急増や後継者不足による農作物供給激減、中国などの乱獲による魚介類の供給不足などにより、日本の第1次産業が壊滅状態に(20)
10. 最後は日本のスポーツ界
サッカーW杯でベスト8、平昌オリンピックではメダルダッシュ。陸上で9秒台が続出。卓球、柔道、水泳など10代の若手が活躍し、東京オリンピックへのムードが盛り上がる(100)
いいシナリオが描けるのはスポーツ界だけか・・・

本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。